

西海市総合教育会議 議事録

招集年月日	平成29年10月24日		
招集の場所	大瀬戸コミュニティセンター 2階第1会議室		
開会及び閉会	平成29年10月24日(火) 開会 午後1時00分 閉会 午後2時50分		
会議構成員の 氏名及び出欠 の状況	市長	杉澤 泰彦	出席
	教育長	中小路 和久	出席
	教育長職務代理者	北島 淳朗	出席
	教育委員	川南 まつみ	出席
	教育委員	寺本 温	出席
	教育委員	福田 郁代	出席
	職務のため出席した者 の職氏名	教育次長	中島 義則
		教育総務課長	田口 春樹
		学校教育課長	大坪 広弥
		社会教育課長	山本 誠治
		総務部長	富永 敬二
		総務課長	山添 秀士
		総務課行政班長	林 浩之

会議に付された事件及び内容	第2次西海市教育大綱の確認について
	基本政策2「いつでもどこでも学べる生涯学習の推進」について 基本政策3「市民総ぐるみで取り組む教育力の向上」
	その他
会議の経過及び結果	
総務課長	(開会) 開会に当たりまして、杉澤市長より開会のご挨拶をお願いします。
市長	皆様、こんにちは。開会にあたりまして、一言ごあいさつを申し上げます。 教育委員皆様方にはお忙しい中お集まりいただき誠にありがとうございます。 皆様には、日頃から本市の教育振興に御尽力を賜り、重ねて感謝申し上げます。 前回7月の総合教育会議では、「第2次西海市教育大綱の確認について」ということで、皆様方と確認を行ったところでございます。私も、この教育問題につきましては、まちづくりの基本ということで、「人づくり」こそが「まちづくり」だと思っております。 教育というのは長い目で見れば大きな力になるものですし、未来につながる先行投資ということで、本腰を入れてやっていかないといけない課題だと思っております。 今ちょうど、平成30年度の当初予算編成作業をやっている最中でございます。教育環境の整備や学力向上につながる予算になるよう努力していきます。 それでは、本日の第2回総合教育会議は前回同様、「第2次西海市教育大綱の確認について」ということで、皆様と一緒に協議を重ねて参りたいと思っております。 皆様から忌憚のない意見を頂き、共通認識を持って取り組んで行きたいと思っておりますので、どうか今日はよろしく願いいたします。
総務課長	市長ありがとうございました。それでは早速議事の方に移らせていただ

<p>市長</p>	<p>きますが、ここから先の進行につきましては杉澤市長の方をお願いしたいと思ひます。</p> <p>それでは市長よろしくお願ひいたします。</p> <p>ここから私の方で進行させていただきます。</p> <p>本日は教育委員会より、第2次西海市教育大綱の基本政策2「いつでもどこでも学べる生涯学習の推進」及び基本政策3「市民総ぐるみで取り組む教育力の向上」の協議事項をいただいております。</p> <p>まず、基本政策2の方からですけれども、社会教育課から説明をお願いしたいと思います。</p>
<p>社会教育課長</p>	<p>(基本政策2の協議事項の内容説明)</p>
<p>市長</p>	<p>説明が終わりましたけれども、これから皆様意見交換をしていきたいと思っております。公民館活動の説明の中で委員の皆様方、何かご意見等ございますでしょうか。</p>
<p>〇〇委員</p>	<p>意見というより今の現状というか、課題を協議していった方がよいのかなと思っております。</p> <p>資料2を見ていただきますと、公民館活動に対する施策としては、校区公民館を各校区ごとに設置するといったところからスタートした訳ですが、ご覧いただくように旧町ごとの地域性というか、あるいはこれまでの活動の流れ、あるいは現状におけるまとまりという中で、ある所は校区であったり、ある所は公立であったり、また西海町でいうと校区や公立公民館がなかったりといったような地区ごとの差異が生じているところであり</p> <p>ます。</p> <p>この辺りが行政としても市としても、今後足並みを揃えていくことも必要なんじゃないかなと感じております。</p>
<p>市長</p>	<p>社会教育課長にお聞きしますけど、西海町には校区や公立公民館がなく、自治公民館だけでやっている訳ですが、このように校区や公立公民館の下に自治公民館がある地区と、西海町のように当然歴史や文化が違うと思うんですが、自治公民館だけの場合とでは、私はよく知らないんですけど西海町の場合はよく自分達の地域というものを自分達の力でやっていこうという姿勢が見えるわけですね。</p> <p>そして老人会や自治会もしっかり連携しているわけですね。公民館活動と老人会活動と自治会活動がいい意味でしっかりまとまっていると思っております。</p>

社会教育課長	<p>それで地元の崎戸町はどうかといいますと、校区公民館、そして地区公民館という形の公民館活動を行っており、当然その活動内容というのも違いがあると思うんですけど、社会教育課長から見て、どういうところが違うというふうに思いますか。</p>
	<p>西海地区につきましては、市長がおっしゃられたとおり、それぞれの自治公民館が運動会であったり学習活動、加えて敬老事業といったものを、それぞれが独自に活動されている状況でございます。</p>
	<p>社会教育課としても、過去に校区公民館の投げかけといいますか相談をしたことがあっておりますが、新たに設置するということまでは至らなかったという話は聞いております。</p>
	<p>本来なら各地区に中央公民館的なものが、それぞれに建物はございますので、そこに公民館組織を立ち上げて活動ができればと思いますが、先ほども申し上げましたように、それぞれの地区の伝統というのがありますので、その方向性というのが見出せないというのが現状でございます。</p>
市長	<p>この図を見てですね、私は運動会とか敬老会とか案内を受けてあちこち見てきて一つの共通性というのが見えてきたんですけども、運動会を例にとりますと、例えば崎戸地区は崎戸町全体で行っております。大島町も公立公民館が全体を網羅しているとうことで、町全体で行っております。郷の方でもやってるんですかね。</p>
〇〇委員	<p>まあ何年かに1度とかいう形で郷でもやっているところはありますが、大島町全体という形で今年も今月8日に行っております。崎戸もそういう形でやっていると聞きました。</p>
市長	<p>はい、そうですね。崎戸も1つの運動会で行っております。西海町は郷で運動会も敬老会もやっておりまして、大瀬戸町でみたら公立公民館単位で大きな運動会を行っております。</p>
	<p>どっちがいいのかというのは一概には言えないんですけども、それぞれ味があります。</p>
	<p>ただ今後、少子化・高齢化が進んでいく中での公民館活動というものをどういうふうに捉えていくのかというのが一つ課題になっていくと思います。というのが一つは西彼町なんですけど、小さな集落がありますよね。例えば平原自治公民館というのがありますけれども、ここは敬老会が2年に1回しか行われていないということで、地域力がけっして落ちているということではないんでしょうけれども、このあたりどうやって地域づくりをしていけばいいのかなと思うわけですけども、このあたり意見があった</p>

<p>〇〇委員 市長 〇〇委員</p>	<p>らお願いしたいと思います。</p> <p>いいですか。 はいどうぞ。</p> <p>市長がおっしゃられるように、人口減少時代の中で、コミュニティというのをどうやって作っていくのかというのは重要な問題で、今日のテーマであります生涯学習のみならずですね、福祉の観点からもそういったことは地域包括ケアと言ってますんで非常に重要な中で、お隣の佐世保市が地区協議会というものの設立を今進めておられます。</p> <p>長崎市では、今年から茂木地区でもスタートしたということですが、これは公民館活動を中心にしながら、そこに学校やPTAや、あるいは青少年の育成会とか老人会、婦人会などあらゆる団体が、その地区というものをまとまりの中で横に連携しようと、そういったことで地域の力をまとまりを設けつくっていかうとする。</p> <p>そのことによって、生涯学習という観点でもそうでしょうし、青少年育成という観点でも、また福祉の推進ということでも、地域をベースにまずやっていかうということと設立を進めておられると、まだ完全には至っていないと聞いておりますけど、そういったことも西海市の中でも進めていっていいんじゃないかという参考例なんですけれども。</p> <p>市長さんはその辺りはどうお考えですか。</p>
<p>市長</p>	<p>はい。そのとおりだと思いますね。ただ、その小集落もやってると思うんです。ただその横の連携はやってると思うんですけれども人力が足りないところが出て来てると思うんですよね。そういったところをどうやっていけばいいのかなと思うんですけれども。</p>
<p>〇〇委員 市長 〇〇委員</p>	<p>いいですか。 はいどうぞ。</p> <p>私は自治公民館として合併前からあるものが、箱物を中心に発想がされてきた。そういう中で今日もお聞きしている中に、法事とかそういう場でしか見てないっていう、それこそ地域住民で何かを公民館中心でしようというものがない。過疎化や高齢化でできない部分、先程市長さんが言われたような、そういうものがある。それは僕は集会所という形で大いに利用したらいいと思いますけど、郷の公民館でも熱心にやれているところもあるけれども、郷だけでは取り組めない、熱心に今までの事業はしてても、例えば環境のことを今までよりももっと学びましょうってことは一つの自治公民館では厳しいのかなと思うので、そこらへん橋渡しして、コーディネートして、自分のとこでできることと、もう少し枠を広げてできること</p>

を整理することも大切なのかなと思ってます。

市長

そうですね。人口減少が進んでいけば一つの集落、一つの自治公民館単位では完結できないという部分がありますので、〇〇委員が言われましたけれども、地域間の連携というのもこれからは必要になってくるのかなと思っております。

ただ、そうなった場合は、その世話人の確保というのがなかなか難しいことになってくると思うんですが、過度に特定の人に負担がかかっていくということも結構あるんじゃないかなと思うんですが、そういうものを、じゃあ行政がどのようなかわりをしていくのかということを考えることが必要になってくると私は個人的に思ってるんですが。

そういうことで教育委員さんの考えを聞かせていただければと思います。

〇〇委員

今〇〇委員さんからも意見があったように、コーディネーターを養成するところから公民館活動の活発化のためには必要じゃないかなと思います。

市でまず何人かを養成して、そのコーディネーターを各地区の自治公民館で今までやってたような活動が続けられるような形がとれるようにすべきで、公民館活動を活発にしようとか言ってもなかなか、今市長もおっしゃられたように高齢化だったり、人が少なくなってきたりして、今までできてたことができなくなるということですから、どうにかして活動を続けていこうとすれば、それをコーディネートする人が必要じゃないかと思います。

まずはコーディネーターの育成が必要になってくると思います。

そのコーディネーターがいろんな地区に出向いて地区の要望なり、市としての活動推進のためのバックアップをしていけるような活動のあり方を考えていくことはとても大事だと思います。

市長

ありがとうございました。〇〇委員からも、公民館をコーディネートしていけるような形になった方がいいんじゃないかのご意見がでましたけれども、そういう点で社会教育課長はどういう考え方を持ってますか。

社会教育課長

コーディネーターになるにふさわしい人考えた場合に、これまでそれぞれ旧町で職員がおりますので、例えば総合支所を経験されたことがある職員、特に長く経験された職員であれば、地域の特性だとか、またはその地域への人脈も相当お持ちであると思いますので、そういった人材の活用ができれば、そういった方をコーディネーターとしてまず養成して、そう

	<p>いった方に将来的には専任の館長、または主事とかいった形で支えるような、できましたら通常的には週3～4日勤務できるような形が1番ですね。</p> <p>まずは公民館という施設が誰でも相談に来やすい施設であって欲しいと思います。そのためには当然日常的にですね人がいて交わる施設を目指すことが必要なんじゃないかなと思っております。</p>
市長	<p>総合支所の経験者ということで一つの例を挙げられたわけですけど、〇〇委員さんは、例えば八木原地区にそういう人がいたとして、小迎地区とを横につなげる役割の人のことをおっしゃられたと思うんですが、そういう話の要請というのは今後考えていかないといけないんじゃないかと思うわけですけども、そういうのはどうでしょうか。</p>
社会教育課長	<p>それぞれ旧5町ありますので、それぞれ地区にコーディネーターを配置するという計画・判断いただければですね、私たちもその部分については真剣に考えていきます。</p>
市長 〇〇委員	<p>他に何かありませんか。</p> <p>ちょっとよろしいですか。</p> <p>はいどうぞ。</p>
市長 〇〇委員	<p>今議論に出ているところなんですけれども、まさにその人材がいない時代だからということなんですけれども、人がいればそれぞれの活動の塊ごとにリーダーがいらっしゃると思うんですけれども、今の現状でいうと、先程市長が言われたように同じ人に重なってとかですね、あるいはそれぞれの活動に重なりあってとかいったようなことが、もう現状だと思うんですよ。そういった意味で先程地区協議会的な例を出させていただいたわけなんですけれども、同時に学校の方では、コミュニティスクール化というのが今後進んでいくわけです。そこには当然学校を中心とした中にも、地域の関わりをもって、今までよりも地域寄りの、学校を中心としたコミュニティをつくっていこうといったような動きを県としても取り組んでるわけなんですけれども、そういった意味で地域と学校の関わりを持つことによって、地区単位のコーディネーターということもまた育成できていくのかなと考えます。</p> <p>言いたいのは、コミュニティスクールと地域とが、どういうふうに地域づくりしていくのかなということです。</p>
市長	<p>今〇〇委員さんが言われた地域というのはどういう形のものですか。</p>
〇〇委員	<p>例えば自治公民館は郷単位ですよ。基本的には郷がいくつか集まって</p>

校区を成していると思うんですよね。今西海市の中でも、適正配置という中で校区も少しずつ変わってきています。そういう意味では郷という単位で動けるところもあれば、いくつかの郷がまとまらないと機能しないところがある。要はその地域機能という分で、どの単位なのかっていうのを、それぞれ地域ごとに考えていかないといけない時代なのかなというふうには思いますね。

市長

もう一つ社会教育課長にお聞きしたいんですが、私が言わんとしていることは、今、一つの郷でやれないことが出てきている。そこに横串差すようなコーディネーターが欲しいということなんですね。そういう時期に来ているんじゃないだろうかということですね。

これははっきり言って行政側の関わりがないと難しいんじゃないかなという思いがするんですけれども、そういう意味でコーディネーターの育成にどういう支援やっていけるのかというのが今後の公民館活動の大きな課題ではないかなと思いますが、そのあたりはどうですか。

〇〇委員

ちょっとその前に、今の話でいくと、西海町ですね太田和・中浦・七釜・白岳という自治公民館の塊がありますよね。これが大坪課長、だいたいの西海小学校の校区になりますかね。

大坪課長

そうですね。

〇〇委員

そうしますと、ここが一つのコミュニティスクールと考えられていくと、一つの大きな塊が機能としてもここに出てくる、というようなコミュニティスクールとの連携というのが一つのイメージですね。

ここで大坪課長に質問ですけど、コミュニティスクール化を進めていくうえで、当然そういったコーディネーター機能といったものは、その中に設けるような形になっていくわけですかね。

大坪課長

はい。よろしいでしょうか。

今、コーディネーターの話が出ているわけですけども、学校にも学校コーディネーターというのを置きまして、コミュニティスクールの円滑な関わりというのをつくっていかうとしてるんですけど、やはり学校がいろんな地域の人のお力を借りる場合に、学校から地域へお願いする方法とか、また、地域が学校への関わり方を求める場合にどういう風な対応の仕方をとったらいいのか、どういう手順を踏んだらいいのか、なかなかそこらへんがわからないことがありますして、そこらへんの間を上手にとってくれるのが地域コーディネーターと学校が配置する学校コーディネーターであり

ますので、十分に対応していくとコミュニティスクールがうまく進んでいくと思っております。

市長

他に何かご意見はないですか。

〇〇委員

個人的なことを言って申しわけないんですけど、公民館がないところに住んでおりますので、地域の課題となっております、公民館を造ろうか、どうしようかということで、今ちょっと頓挫している状態にあります。補助金が出るとは言え、出す分がありますので、それこそ少子高齢化で、いくらかの積立金はあるんですが、とてもとても間に合わない、もし造ったとして維持費がかかるであろうから、10年・20年先の人口を考えると、それこそ年金ぐらしばかりになってしまう地区なんですね。

それはさておきまして、常勤3～4日なりとも館長さんや主事を配置するのが、経済的なことを考えたときに、そういうことができるのかなあと思ったりするんですけど、私はこの表を見た時にですね、今は下から上に人が相談に来るのを待っているじゃないですか。じゃなくて一番大事なのは自治公民館じゃないですか。人づくりをして、地域を支えてということになれば、一番自治公民館というのが、誰が学ぶかといえ、子ども達は放課後学習とかあるじゃないですか。

おそらく高齢者の居場所としての役割が一番大きいんだと思います。ただし、高齢者は車を動かせる人はいいですが、車がない人のことを考えると、やっぱり近い自治公民館というのが人づくりをするのには一番いいんじゃないかなと思います。

なのでコーディネーターが自治公民館に出向いていくというのがいいと思います。

市長

他に何かありませんか。

〇〇委員

逆の視点なんですけど、私小迎に住んでるんですけど、小迎地区は公民館活動が活発なのかなあと考えたら、非常に？なんですけど、一つは外から入ってこられる方が非常に多い地区でもありますし、私が住んでいるところは西海市報さえも届かないんですよ。そういう塊が全然できていないところもあったりとかして、均衡な市政の振興というのを考えたときにですね、そういった地域の中でもどうやって繋がりをつくっていくのか、これはもう防災とかですね、いざという有事の時に際して繋がりがないと非常に脆弱ですよ。

そういった意味でも逆に、今話題に上がっていた絆があったところをどうするかということもそうですが、絆がないところをどうするかという地

	<p>域も、たまたま小迎というところを例に出しましたけれども、そういった課題もあるのかなと思いました。</p>
<p>市長</p>	<p>小迎地区については、自治会組織に加入していない人がたくさんいらっしゃるという聞いております。そういう方には配布をしないわけですね。加入していない方には市が単独で配布していると理解していますが。</p>
<p>総務部長</p>	<p>基本的には各行政区長さんの方には、お願いする業務の中に市報の配布というのが当然入ってるんですけど、行政区長さんイコール自治会長さんということもあってですね、そこのご判断で自治会に加入されていない方には配布をしていないという実態も確かにございます。</p> <p>それをカバーする意味でですね、市内の拠点拠点に広報誌を配置をしまして、ご自由にお取りくださいという形でカバーしている部分も現在あります。</p>
<p>市長</p>	<p>自治会に加入されていない方には、市の方が直接配っている実態というのはないんですね。</p>
<p>総務課長</p>	<p>市の方から配っているのではなくて、コンビニとか、そういった場所に市報を置きまして、今の広報のスタンスからすれば、いろんな場所に配置して不便がないようにお配りしているというスタンスでいるみたいなんです。</p> <p>ただ自宅に届かないというのは、今〇〇委員さんが言われたように、自治会イコール行政区ではないのですが、兼ねているので行政区長さんが自治会に加入している方の分だけ配っているという状況にあるので、たまに届かないという問い合わせがあった場合は、市内の拠点箇所においてありますのでご容赦くださいということをお願いしている状況にあります。</p>
<p>市長</p>	<p>教育長は生涯学習についてどうお考えでしょうか。</p>
<p>教育長</p>	<p>まずひとつ大事なものは、私たち教育委員会が骨格というか、こうしたいというのがあやふやだと思うんですね。どういうふうな理想の形に持って行きたいかというのが。それを持つとともに、さっきから出てる「人」、実現するには人がいますので、コーディネーターで言えば、私の意見であれば、中央公民館にまず1人ぐらいずついるのかなと思うところと、資料の中にもあったんですけど、最前線という言葉があったんですけど、最前線はさっきから話にでていた自治公民館なんで、これの活用ですね。学校については、学校がいかにか地域とか公民館に出ていくかということがポイントだと思うんですね。</p>

市長	<p>こんなたくさん建物もあるし、家からも近い、学校からも近いので、学校を絡めることによって、自治公民館の活性化に繋がられるし、地区協議会との関わりも含めて教育委員会がしっかりした考えを今後固めていきたいと考えております。</p> <p>今日の最後のまとめみたいになってしまいました。</p>
〇〇委員	<p>ひとつよろしいですか。市長さんが出席される総合教育会議というのは、教育だけの議論だけでなく、市政全般に関わることだと思いますので、もう一度福祉的観点というのと自治会活動というのをお話させていただきたいんですけど、平成22年だったと思うんですけど、第1期の福祉計画が出来まして、その時に国が申されてる地域包括ケアシステムより先に西海市の場合は、地域ケアシステムというものを、そこに既に記載してたんですね。そのまず基本というのが自治会活動だったんです。その自治会の中でいろんな情報をキャッチできるだろうと、介護の問題であっても、教育振興の問題であっても、そこで専門職を行政が派遣しながら問題を解決していくしくみをつくろうというのを福祉計画の中に書いてあります。そういう意味では本当にその自治会活動というのは、教育だけではなくて、コミュニティ機能というには非常に重要なことだと思いますので、ぜひ多面的な方向性でもって、今後自治公民館活動を含めた自治をどう創っていくのかというのをご検討いただければ有難いなと思っております。</p>
市長	<p>まだ、いろいろご意見があろうかと思いますが、次に基本政策3の説明をお願いしたいと思います。</p>
社会教育課長	<p>(基本政策3の協議事項の内容説明)</p>
市長	<p>担当課から説明がありましたが、何かご意見はございませんでしょうか。</p>
〇〇委員	<p>保護者への家庭教育の支援、家庭教育力の向上ということで、非常に私は大切なことだと思うんですけど、本当に受けてもらいたい人は来ないんですよ。一生懸命家庭の中でやっている人が来るという、そこがちょっとジレンマが、現場を見てても感じるんですね。人数はそこそこ集まれば会になっていきますけど、そこらへん考えていかないといけないのかなと思うんですけど。</p>
〇〇委員	<p>よろしいですか。なかなか教育委員会の場でもPTAに関して議論の場が及ぶことがなくて、この場でちょっと山本課長に質問ですけど、今PT</p>

A活動自体が不要論があったり、あるいは形骸化されているといった社会的な課題でよく論じられているわけですが、地域的に西海市の場合、PTA活動というのは相対的に見ていかがでしょうか。

社会教育課長

私もPTAの総会に出席し、夏場にはスポーツ交流会といったものに参加させていただきましたが、私の見た感じで申し上げますと、現在市のPTA連合会の方には事務局の職員を非常勤ではございますが西海公民館の方にですね事務局の部屋を提供しております。

そこで通常であれば午後から出勤されてとかですね、そういった形でPTAの連絡調整であったり、資料の準備であったりとか支援を行っております。この中には運営補助金とか各種県大会であったりとか九州PTA大会の研修旅費の支援を行っております。

九州PTAや県大会には積極的に参加していただいておりますし、私が総会に行く中でも和やかな雰囲気の中で行われておりますし、それぞれの役員さんかなり熱心に取り組まれているようであります。

〇〇委員

ありがとうございます。学力テストと合わせて行われる家庭教育のアンケートでは、西海市は他の地域と比べて比較的環境というのはよろしいのかなと思うんですけども、今は共働き世帯がかなり増えてきてまして、子どもは、おじいちゃんおばあちゃんに預けられるところは、まあそういう形でもいいんでしょうけど、子どもにとっての環境自体が非常に危惧されているのではないかと思います。

〇〇委員

関連して、地域の子どもは地域で育てるというのは非常に大切なことです。西海市はまだそういう部分が残っていると思うんですけど、ただそれでも、よその子を叱ることがだんだん難しい、日本全国そうなんですけど、そういう風潮になってきてるんじゃないかと思います。

でも、西海市は登下校含め地域の人たちが見守ったり、畑のことを教えてくれる人がいたり、西海市はまだまだ捨てたもんじゃないなと思っております。

以前、私が教育委員長をさせていただいている時に、県の教育委員会が巡回で来られた時に、いろんなデータを持っておられたんですが、地域と学校の子どもたちの関係が他と比べて良好です。家庭内でも親子関係、家族の関係もよそと比べてずっと良好です。ただ一つ家庭内学習の時間がよそと比べると非常に短い。学力向上ということも非常に大事なことだと思うんですけども、その時こういうことを県の教育委員の方に申し上げたんですね。

なぜ、そういうよそと比べて学力がちょっと劣ってても、良好な部分が

いっぱいあるかといったら、やっぱり一緒に食事をしていると。夕食をです。だから、そこで一緒にテレビを見て、その後それについて一緒に語ったりしている。そこで人間関係が構築されている。県の方は学力を手に入れば両方でできていいんじゃないですかと言ってましたが、よくわかるけどそこは焦らないでくださいと言いました。

ごはんをそれぞれお父さんが遅いからと、僕も塾があるから、勉強したいからと言って、それぞれ違った環境でご飯を食べて、そして自分の部屋に入って勉強をすれば点数は上がるかもしれない。けれども、これまで大切にしてきたものがそこで一気に崩れてしまうと、だからそこを大切にしながら、学力向上を進めていかないと、地域も家庭も人間関係というものが、せっかく培った宝が失われていくんじゃないかと思います。

市長

今〇〇委員が言われたご飯と一緒に食べるということは非常に大事なことでと思います。じゃあその環境はどうやってつくってあげればいいのか。その主体は親だと思うんですね。今日はまさにそういうところを協議しようと思います。

何か皆さんからこういった時間をつくったらどうかといった提言はないでしょうか。

〇〇委員

やっぱり子は親を見て育つわけですから、親の生き方なりと思うんですね。親自身が地域に関わるとかですね、まずは隣近所であったりですね。やっぱりそういう活動をする中で子どもたちも育っていくのかなという気がしますよね。

そこで人と人との関係性を学んだりするのが、今はそこが抜けてしまってるんじゃないですかね。親は親で会社に行って、プライベートでは好きなことをするという時間だけで社会との繋がりというのが殆どない。子どもたちは学校に行って塾に行って、遅く帰って来てというような状況の中で、やはりそういった人間社会の中に生きていくというのを親自体も社会自体も見せてないのかなというところがありまして、一番目のテーマにも繋がるわけですが、社会の中で地域の中で営みがあるというのを親自身がしっかりと見せていかないといけないと思います。

市長

今非常に貴重な意見だったと思うんですけど、こういう家庭内の教育というものを、教育委員会や行政がどう関わっていくのかというのをですね、ちょっと考えていく必要があるんじゃないかなと思うんですけど、非常に難しいんですが、この時代の流れの中で、今言われた生活スタイルというものは改善されるどころか、もっともっと進んでいくと思うんですね。

その対策を行政に振っても困ると思うんですが、何か必要になると思い

<p>〇〇委員</p>	<p>ます。いかがでしょうか。</p> <p>ひとつよろしいですか。まあ、これは全てを解決できるわけじゃないですが、地域の文化度を高めるといのは非常に大事なことだと思うんですよ。芸術に触れるとか、文化に触れるとか、そういったことを含めてですね。例えば本に触れるのもそうなんですけど。</p> <p>それで、地域の文化度を高めるといのは個人ではできないんですよ。行政しかできないんですよ。非常に残念ながら、長崎県の文化予算といのは全国でワーストなんです。多分西海市も調べてみるとわかると思うんですけど、かなり低いと思うんですよ。ただ、西海市には文化ホールがありますし、各町図書館もありますが、どのくらいの利用率ですか、年間の来館者数は。</p>
<p>社会教育課長</p>	<p>申し訳ありませんが、本日資料を持ちあわせておりません。</p>
<p>〇〇委員</p>	<p>ないならいいですよ。皆さんそれぞれの図書館を思い浮かべたら大体わかりますよね。</p> <p>例えば、ここにミュージアム構想がありますけど、一つの西海市のシンボルを造る中で、そういった文化に触れるという習慣をつくるのは、これはもう行政しかないわけですね。それこそ、私は武雄市立図書館を調べましたが、あそこは年間来館者数は68万人ですよ。人口は4万8千人しかいませんから。行くと子ども達からお年寄りまで、もの凄いたくさんの人が滞在時間も含めて利用されてらっしゃいます。</p> <p>そういったものは個人ではできないし、地域でもできない。となると一つのアプローチとしてあるのは、やはり行政がそういったものにお金をかけるということは、一つの地域のカラーを創っていくとか、ライフスタイルをつくっていくのに大いに影響してくるのかなと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>今〇〇委員から一つの発案がありました。</p> <p>自治公民館にも本を置いていたらどうだろうかとも考えます。その本もですよ、新しいものばかりじゃなくていいわけですよ。古本というものもたくさんありますので、3、4年前のベストセラーでも古本屋にいけば安く売ってるわけですから。先程の議題に戻りますけど、公民館の中にも文庫を設けてもいいんじゃないんでしょうか。</p>
<p>〇〇委員 社会教育課長 〇〇委員</p>	<p>小さなことですが、月1回家庭の日ですか。</p> <p>第3日曜日ですね。</p> <p>ノ一部活デーという形で提唱してますけど、殆ど浸透してないと思いま</p>

す。そこらへん浸透しない理由に、やっぱり、よそが部活を休まなかったら、自分とこだけ休んだら1日遅れてしまうという強迫観念もある。そこらへんは、足並み揃えるなら揃えましょうと、ただその家庭の日だけノー部活デーですよと言っても、どう過ごしていいかっていうのがあって、まあ考えられる家庭は心配ないんでしょうけど、部活がないから今日はゲームができるなっていうことで終わるならもったいないので、なんかそれこそPTA活動の中で、ウチの学校では今度の家庭の日で、こういうことを家族でして、またそれを報告し合いましょとかですね。その他には親子で参加する何かそういうものを企画するとかですね。

足並みを揃えるという点では行政の力が必要かなと思います。

〇〇委員

幼児教育の立場からよろしいでしょうか。今年になってから県の第3日曜日のノー部活デーの強化というのが、本当にやめましょってことで言われています。

それと〇〇委員さんが言ったように、部活を休みにしました。そこで充実した生活を送れるかという、これは疑問であります。もっと親子関係を深めると、もっといい生活を送れると思います。

ただ、それは生まれた時から原因があると私は思っています。最近は育児休暇が長いこと取れるようになって、一緒に子どもと家庭で過ごす人も多くなりましたけれども、でも反対に産後休暇が終わると早めに保育園に預けて、親子関係が築かれぬままに集団社会に入り、本当に身近な人を敬うとか、身近な人の心を知るとか、身近な人に愛情を注ぐというのが希薄になっている気がします。

親も親になれないままに子どもを外に出す。子は親の愛情を味わう間もなく外に出ていく。そこで根本になるところの子どもの心の育ち、親になっての心の育ちがうまい具合に出来てないで、そこに何らかの歪みが出てきていると思うんですね。

それをどう解消するかと言ったら、子どもを産んだらじっくりと向き合っ、子育てする期間の保障をしてあげるっていうのは大事なことです。それにはお金があるので、保育園や幼稚園や学校等、教育の無償化って言うだけですが、児童手当は出るかもしれないけど、家庭で子育てしているお母さんに対してのそういう保障っていうのも大事になると思います。

〇〇委員

生涯学習というのは大きなテーマだと思うんですけど、今後、社会自体が長寿化していきます。このまま通常のスPEEDでも平均年齢が90歳になりますし、2007年以降の生まれの子ども達は、107歳まで生きるというふうに言われています。

今現在ですね、100歳以上の人は人口の1%しかいないですけども、その年代の人は50%の人が100歳まで生きると言われています。それを考えますと、生涯学習とは何かと言うところに行くと思うんですね。それは西海市でも掲げてますけど、生涯生き生きと「活躍できるまちづくり」というのが非常に大きな町づくりのテーマになっていくのかなというふうに思います。いろんなライフスタイルですとか、家庭環境ですとか、あるいは趣味や嗜好ですとか、そういったことにそれぞれ思い馳せられる町づくりというのが大事だと思いますし、いろんな場面で市民が地域づくりとかコミュニティづくりに関われるような、そういった地域活動といいますか、そういったことをどんどん仕掛けていく、その仕掛ける場所の一つが公民館でもあるでしょうし、例えば、集わせるとかいうことでは学校も生かせると思いますので、教育という中での社会資源の生かし方、これは非常に重要ですね。先程から出ている、図書館、自治公民館または学校であったり、社会資源を生かしていかに人を巻き込んでいくか。そこにコーディネーターをいかに配置して行って周りをどんどん巻き込んでいくかと。そういう活動をいろんなところから発信できる、そのためには1番重要なのは教育なんですよ。

そういうことが仕掛けられるようなコーディネーターの育成というのが大事だと思います。

〇〇委員

法律的にも行政的にも素人なので、その壁はわかりませんが、随分前にどちらの市長さんかは忘れましたが、市長さんとういう会議をした時に提案をさせていただいたことがありました。3歳まで子育てに専念するお母さんには例えば月10万円補助します。というのは、細かい試算してませんが、今1歳未満の未満児という子どもには行政から月に園に対して16万3千円か8千円西海市でも出たと思います。それを3歳まで引き伸ばして、どの額が妥当なのかわかりませんが、例えば働かずに子育てに専念するんだったら、月10万補助しますよと、お母さんが子育てするのも大切な仕事だと西海市は認めますよと、例えばですけどね。そうすると早くに預けるといのは減っていくんじゃないかなと思います。

3歳までお母さんと一緒に生活するというのは先を見越した中で本当に大切だと思うんですね。

例えば、それが行政のトップという形で国からの補助も今までどおりおりてくるようなことがあれば、手出しは殆どなくて、しかも子育てがしやすい町となれば、よそからでも西海市に住めば子育てができるっていうことがあるんじゃないかなと思うんですね。

以前その提案をした時に、こういう壁があるから無理ですという返答を受ければ私も納得できたのですが、結局その時は「ああそうですか」とい

った対応だったので、残念だなと思いました。

今認定こども園とか、子育て支援センターという、お母さんの悩みを聞き、また育てていくシステムが出来上がっているのも、月に1回はそこに行くのが最低条件とか、そうすることで親育てもできるので、お金をかけずに子ども達も伸び伸びと育て、お母さんもお母さん業というのができる町づくりができないかなと考えます。

〇〇委員

よろしいですか。男女共同参画推進アドバイザーをしているものとして、私を子ども達を幼稚園からではなく、1歳児からでも保育園に預けて両親働くという立場を全然否定するものではなくて、私自身は子育てのために仕事をしませんでした。今は育休も長く取れるようになり、2歳ぐらいまで取れるようになりまして、お母さんばかりでなく、お父さんも取れるようになりました。

お父さんにも取って、ぜひ子育てに参加していただきたいなと思うんですが、さっきから親育てのことを言ってますが、昔もそうで、子どもはみんな親に似てるんですね。私たちが子育てする時も、みんなの子を見ても、この人がお父さんだお母さんだというのがはっきりわかるぐらいに、親が育ったように、子どもも育つんですね。

西海市のPTAの方というのは、私は役員しか面識がないので、ああ頑張ってるなあといつも思うんですが、学んでほしいという方は絶対に足を運んでくださらない。

今は、片親世帯も多いですから、何かをする時に、特に行政主導型だと、そういう時には必ず土日になります。研修会をする時も何もかもですね。

ただし、それは大企業とか公務員の考え方であって、保護者の方でもサービス業に従事している方は他の地区よりたくさんいらっしゃると思うんですね。なので、例えば研修会を夜にしたりとか、1日長いスパンでとるのでなく、PTAの研修会にしても夜の1～2時間で、子ども達と一緒に遊びながらやるというやり方も考える必要があるんじゃないかと思えます。

女性も高学歴になりましたから、女性も働きたいわけですよ。3歳まで育児をやってたら、正社員のイスを失くすんですよ。それを奨励するんじゃないかと、もっと他の支援の仕方もあるんじゃないかと思えます。

〇〇委員

性差別をする気はさらさらないんですが、子どもは、特に幼い時は、お母さんと一緒におれるかどうかっていうのは、その違いが思春期に出てくるんですね。共働きしている家庭に話に行く時は、どんなに忙しくても、1日3分でいいから、向き合って話をしてください、また抱きしめてくださいと言ってます。お父さんだと、ある程度までは娘を抱きしめられます

	<p>けどね。キャリアのことも私はわからないではないですが、特別な事情を除いては、できる預けないで育ててほしいと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>そろそろまとめに入りましょうか。教育長何かないですか。</p>
<p>教育長</p>	<p>P T Aに限って、学校をよく知っている立場から言いますと、本当に受けてもらいたい親が来ないのは、P T A活動に魅力がないというのがまず一つだと思います。講演会開くにしても、何かちょっと工夫するとかですね。食事会つけるとかですね。</p> <p>課長に聞きたいんですけど、西海市にはP T AのO B団体というのはあるんですか。</p>
<p>教育次長</p>	<p>白似田小学校には同窓会組織がありますね。あと亀岳小学校とかですね。ただ全部の小学校というわけではなくて、ない方が多いですね。</p>
<p>教育長</p>	<p>P T Aはそうなんですけど、順番だからとか、人がいないから引き受けましたという場合もあるわけですね。そういったこともあって、これがO Bの会を作ると、例えば元P T A会長が3人集まれば、これはもう面倒見のいい人達ばかりだから、かなり強力になったり、求心力が出てくるわけですよ。</p> <p>私が以前いた長与の中学校にはそれがあったんですけど。O Bの会なんだけれども、除草作業したり、文化祭の駐車場係したり、先生達の歓迎会をしたりですね、いろいろやってくれるんですけど、それがまた、現役P T Aの活性化にもなっていました。</p> <p>そこには長与町から補助金が出てて、まあ除草とかしますからね。そういうところからP T Aの活性化も出来るんじゃないかと思いました。</p> <p>あともう一つは、学校行事も地区行事もそうですけど、親子という冠を、除草でもだいたい親がやっていますよね。それを親子で一緒に除草しましょうとか、親子で一緒にゴミ拾いしましょうとか。ミニバレー大会でも、親子ミニバレー大会にすると、お父さんやお母さんの人間味とか出て、今までの経験からいい影響が出ていました。</p> <p>私も教育長になって、P T Aの話題は今日初めてですが、今後これをどう学校に広めていこうかと考えています。</p>
<p>市長</p>	<p>だいたい時間になってきましたけれども、今日は公民館活動の活性化ということで、コミュニティの再構築ということだと思います。そのコミュニティの最小単位というのは、親子関係であり家庭環境だと思うんですが、皆様方の意見をお聞きしながら、結論として何だったのかなと考えたとき</p>

に、親はやっぱり子どもとですね、過ごす時間をたくさん作らないといけないということですね。この一言じゃないかなと思っております。

そして、研修会にしても夜に開くとかして、子どもたちと遊びをしながらやる。先程教育長から話しに出ましたけど、除草作業にしても親子でというような、こういう一つの形というものを形成していくというのが家庭の教育力の向上につながると思っております。

今日は貴重なご意見ありがとうございました。活発な形で行われまして、私も非常にワクワク過ごさせていただきました。

これからも子育てしやすい西海市をつくっていきたいと思いますので、皆様方の御理解御協力をよろしくお願いいたします。

それでは以上をもちまして、第2回西海市総合教育会議を閉会します。

(閉会)